

令和元年産(30年播種) 麦類生育概況

長野県農業試験場 作物部

調査月日	項目	大麦:ファイバースノウ			小麦:シラネコムギ		
		平年	平成30(播) ~31年(産)	平年比	平年	平成30(播) ~31年(産)	平年比
出芽期 (12月4日)	出芽数 本/m ²	168	170	101	164	147	90
越冬前 (12月15日)	草丈 cm	11.7	16.3	139	13.8	19.6	142
	茎数 本/m ²	389	607	156	385	708	184
	葉数	3.7	6.4	+2.7	3.6	6.2	+2.6
越冬後 (3月1日)	草丈 cm	11.8	14.0	119	13.4	18.8	140
	茎数 本/m ²	632	1017	161	787	2150	273
	葉数	5.4	8.3	+2.9	5.8	8.2	+2.4
(3月15日)	草丈 cm	12.8	17.3	135	14.6	25.6	175
	茎数 本/m ²	940	1135	121	992	1632	165
	葉数	6.3	9.3	+3.0	6.6	8.9	+2.3
幼穂形成期 茎立期(参考)		3月14日	3月2日	-12	3月23日	3月8日	-15
		4月8日	3月21日		4月11日	3月22日	
出穂期		5月1日	4月29日	-2	5月8日	5月9日	+1
成熟期		6月7日	6月4日	-3	6月18日	6月18日	0
成熟期	稈長 cm	91	89	98	84	102	121
	穂長 cm	5.0	4.3	86	8.4	8.5	101
	穂数 本/m ²	487	469	96	503	630	125
収量	子実重 kg/a	71.7	68.7	96	66.2	70.3	106
	容積重 g/l	702	662	94	800	791	99
	千粒重 g	38.7	35.2	91	41.1	40.0	97

※平年値は過去7年間における収量最大年と最小年を除いた5カ年の平均値。

※茎立期はデータ数不足により平年値は参考値として平成30年度の数値を示す。

<耕種概要>

栽培様式:30cm条間ドリル播

播種期: 大麦 平成30年10月22日、小麦10月22日 播種量: 7kg/10a

施肥量(N): 基肥 6kg/10a 追肥 茎立期追肥:3月15日 1.5kg/10a

止葉展開期:大麦 4月22日 小麦 5月7日 2kg/10a

<生育概況>

越冬前

播種は適期に行われた。播種以降、現在まで平年より旬別平均気温で1℃~2.6℃高温で推移し、また、少雨傾向であったため、湿害等の影響もなく生育は旺盛。ファイバースノウ、シラネコムギともに草丈、茎数、葉数のいずれも大幅に進んでいる。

越冬後

越冬中降雪は少なく、2月以降平年より高温で推移したため、生育は進んでいる。平年対比では大麦、小麦ともに越冬前と概ね同等の生育進度であるが、小麦の茎数は大幅に増加している。

幼穂形成

~茎立期

2月下旬~3月上旬にかけて、平年より2~3℃高く推移し、引き続き、生育は前進傾向。幼穂形成期は大麦で平年より12日早く、小麦で15日早い。大麦は越冬前の生育過剰により黄化が目立つ。茎立期についても前年より大幅に進んでいる。

出穂期

出芽以降生育は前進傾向で進んできたが、出穂期は平年より大麦で2日早く、小麦で1日遅かったことから概ね平年並に近づいた。4月~5月上旬が平年に比べ0.6℃~2.5℃低く推移し、生育進度が緩慢になったためと考えられる。

成熟期

大麦の成熟期は平年より3日早かった。稈長、穂数は平年並であったが、穂長がやや短かった。小麦の成熟期は平年並みであった。稈長が平年より長く、穂長が平年並み、穂数が平年より多かった。

収量

大麦は子実重、容積重、千粒重ともに平年よりやや小さかった。小麦は平年よりやや子実重が大きくなった。容積重、千粒重がやや小さいが穂数が多いことからやや多収となったと考えられる。